

武陽 月報

武陽食品株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル
Tel 03-3211-4831 Fax 03-3211-6004



武陽月報は、大豆と共に情報をお届けするニュースレターです。

新年明けましておめでとうございます

本年も宜しくお祝い申し上げます

2022年(令和4年)の十二支は🐉(トラ)です。勇敢で争いごとに強く、自信に満ち溢れています。

十二支の順番を決める昔ばなしでは、足の速さで優勝の最有力候補ながら、前の晩から出発していた丑・ネズミに先は越され3位となってしまいました。しかし、ルールを順守し夜明けとともに出発したトラは、現代ではコンプライアンスを遵守しつつ、その中で一番になるという尊重されるべき干支です。

さて、前の寅年の2010年を思い返してみると、鳩山内閣から菅直人内閣に変わり、尖閣諸島では中国漁船による衝突事件などがありました。流行語は「AKB48」「ととのいました」。芸能界では、ふじもん・ユッキーナ、海老蔵・麻央ちゃんの結婚がありました。なぜか未だ記憶にある「スカスカおせち」が年末年始の話題となっていたのはこの年です。鳩山さん・AKBなど12年経つと主要メンバーはずいぶん変わりますね。

今年の寅年は「五黄の寅」といい36年に一度の強運の年。何事にも立ち向かう行動力が試される年だそうです。前の「五黄の寅」は1986年(昭和61年)でした、この年は株価が高騰しNTTフィーバーがあったり、土地ころがしによる地価の高騰などがありました。また「リゲイン」の発売がはじまり、24時間働けますか?が流行りました。ちょっと物騒な感じもありますが、ものすごい勢いがあった年であったのは間違いありません。

今年は、何事にも立ち向かう行動力を発揮し、華やかな時代の幕開けにしましょう。



国際物流の混乱 ~ マックやディズニーランドだけじゃない

昨年初めには主にコンテナ不足を原因とした物流の混乱がありました。これはコロナ禍における巣籠り需要が拡大し、米国にて家具や玩具・家電製品の輸入が頻繁になり、ロサンゼルス港などでコンテナ船の沖待ちが話題となりました。

現在はコロナ終息後の経済復興を見越した物量が世界各地で増加し、防疫措置を強化する港湾・空港での人員不足が深刻化しました。加えてオミクロン株の出現や北京五輪は更なる防疫強化を余儀なくされており、発着便の混乱・遅延は拍車がかかっています。

昨年12月には、マクドナルドでポテトが不足し、MサイズLサイズが販売中止。また、ヘリウムガスの不足により、ディズニーランドで風船が販売中止など話題となりました。ポテトは主要産地のカナダで大規模水害があったこと、またヘリウムは世界各地で半導体製造が活発化したことも要因ですが、やはり根底には物量増加に伴う、コンテナ不足・コンテナ船の不足・防疫強化による発着便の混乱があります。

原油高も加わり海上運賃も上昇しており、米国では30年振りのインフレにあります。インフレの原因はいくつかありますが、やはり生産コスト上昇が原因となっている「コストプッシュインフレ」と言われています。インフレ抑制のため



FRBは米利上げを前倒しするとの憶測から、昨年11月以降円安・ドル高(年初102円→12月114円)となり、日本にとって更なるコストアップの不安要素となっています。

コンテナ不足からはじまった国際物流の混乱は世界経済を揺るがしております。中国や米国では混乱収束には春節から夏ぐらいと見込んでいます。事業者のみならずみなさまにおいてもコロナ前と同様にモノが確保され、モノが潤沢に入ってくるとは限らないことを十分に認識し、早め早めの在庫確認と発注を心掛けてください。



シカゴ大豆相場の動向について

12月の最終週で **1 ㊦/13.71 ドル** と再び価格高騰に動いている背景について考察してみました。

大豆価格は①「生産地の生育状況・収穫状況」②「生産量・消費量・在庫量」③「中国の需要」④「米国民主党政権によるエネルギー利用」が主な変動要因です。

12月当初までは中国の作付け面積は減少しているが、世界全



体で見れば史上最高の生産量の見通しです。生産量が消費量を上回る公算で、在庫が増加するため、相場価格は下落基調にありました。しかし12月3週あたりから上げ基調にあります。これは南米の天候不順が伝えられたことと、中国政府の農産物自給率向上が指示されたことに起因するようです。中国内の豚頭数は増加しており、再び大豆を買いに出ているようです。

一時的な価格高騰で収まってほしいと願うばかりです。



令和3年産国産大豆の第一回入札結果

日本特産農産物協会より令和3年産最初の入札結果が発表されました。

平均落札価格は、普通大豆 9,743 円、特定加工用大豆 9,806 円、平均 9,756 円となり、前年と比較し微減での取引開始となりました。また、上場数量は下記の通り 1,861 トンと、昨年よりは増加したものの近年では低位にあり、4年前の平成29年12月の初回入札時の 3,883 トンと比較すると大幅減少となっています。



来月以降に上場される九州の銘柄については、台風の影響から収穫が低位で、価格高騰が予想されます。一方、東北地方の収穫は例年並みが確保されており、昨年と比較し価格面が抑えられるとみております。

区分	上場数	落札率	平均価格	前年同月比	前年7月比	2年産平均比
普通大豆	1,485 トン	83.9%	9,743 円	△687 円	△1,459 円	△1,748 円
特定加工用	376 トン	86.9%	9,806 円	+148 円	△44 円	△883 円
合計	1,861 トン	84.6%	9,756 円	△469 円	△1,108 円	△1,539 円

【過去3年の第一回上場数量の推移】

区分	今回	2020/12月	2019/12月	2018/12月
普通大豆	1,485 トン	851 トン	1,059 トン	1,853 トン
特定加工用	376 トン	307 トン	356 トン	485 トン
合計	1,861 トン	1,158 トン	1,416 トン	2,338 トン
落札率	84.6% (1,574 トン)	100% (1,158 トン)	100% (1,416 トン)	45% (1,059 トン)

【銘柄別落札価格】

産地	粒別	品種銘柄	今回(2021/12月)	前年(2020/12)	増減	落札率
北海道	大粒	とよまさり	10,109	10,545	△436 円	100%
青森	大粒	おおすず	10,668	10,145	△523 円	100%
秋田	中粒	リュウホウ	11,850	9,633	+2,217 円	100%
新潟	大粒	里のほほえみ	10,230	10,015	+215 円	100%

小粒スズマルは 1,155 俵の上場に対し、落札は 660 俵 落札率 57.1%

小粒ユキシズカは 3,630 俵の上場に対し、落札は 165 俵 落札率 4.5%

主に納豆に利用される小粒の銘柄は市場でのダブつきもみられ、低位な落札状況となりました。

次回の入札は 1月19日(水)の予定です。

□ 本社	03-3211-4831	□ 飼料部宮城営業所	0229-25-8680
□ 東北第一営業所	0229-54-1151	□ 飼料部福島営業所	024-593-5121
□ 山形出張所	0234-21-9144	□ 大豆選別・挽割加工工場(宮城県美里町)	
□ 東北第二営業所	0243-24-5818	□ 大豆保管第1・第2定温倉庫(宮城県大崎市)	